

# 女性研究者技術者委員会ニュース

No.21 2009年1月12日

連絡先：日本科学者会議全国事務局 Tel：03-3812-1472、Fax:03-3813-2363

e-mail: [zenkoku@jsa.gr.jp](mailto:zenkoku@jsa.gr.jp) ホームページ <http://www.geocities.jp/jsajosei/>

1. 第17回総合学術研究集会 分科会「女性研究者・技術者の発展に向けて」
2. 各地のたより 第6回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加報告
3. 2007～2008 女性研究者技術者委員会 活動記録

## 1. 第17回総合学術研究集会 分科会「女性研究者・技術者の発展に向けて」開催 - 22名の参加で充実した議論

2008年11月22～24日に名古屋大学で開催された、第17回総合学術研究集会で、女性研究者技術者委員会は、表記の分科会を設置しました。プログラムと主催報告、コーディネーター総括を掲載します。各講演・報告の詳細は、予稿集をお求め下さい。予稿集は「連絡先」の事務局もしくは日本科学者会議の各支部へ。

### プログラム

コーディネーター 金子幸代

(日本科学者会議女性研究者技術者委員会委員長 富山大学教授)

主催報告「女性研究者・技術者委員会の取り組みと現状・発展に向けて」

石渡真理子(日本科学者会議常任幹事、女性研究者技術者委員会)

基調講演「未来を開く女たちのネットワーク」

坂東昌子(知的人材ネットワーク あいんしゅたいん)

各階層・分野報告

「任期付講師というスタートアップとキャリア形成」

長谷川千春(京都支部 同志社大学講師)

「明治期の女性投稿雑誌『女子文壇』の女性労働」

伊藤恵里(富山支部)

「女性研究者の育児支援施策と大学関係保育所について」

黒澤ひとみ(愛知支部 名古屋大学教育発達科学研究科D3)

「私の「生きること」と女性研究者問題」

沢山美果子(岡山支部 岡山大学客員研究員・非常勤講師)

## 主催報告 女性研究者の現状と課題 若手中心に取り組み強化を

日本の研究者に対する女性比率は約 12%、毎年わずかずつ増えてはいるが、欧米諸国の多くで全研究者の 30 - 40%を女性が占めていることと比較して、あまりにも低い数値である。助手・助教から教授へと職階が上がるにつれて女性比率が大幅に下がること、大規模大学の女性比率は中小の大学と比べて低いことなど、統計データだけ見ても、日本の女性研究者の置かれている状況は劣悪である。

一方、39 歳以下の若手に目を向けると、博士課程の院生の 30%、ポストドクターの 20%が女性である。すなわち、「高学歴ワーキングプア」(博士の就職難)と呼ばれる不安定雇用研究者のうち 20 - 30%が女性である。将来の科学・技術の発展を担う若手研究者が不安定な立場にあることは、それ自体非常に大きな社会問題であるが、女性は、研究者としてキャリアを積む時期と出産・育児の時期が重なり、安定した職を得る上でさらに大きなリスクを抱えている。

政府は、科学技術分野における女性の活躍促進のため、「特別研究員制度」(出産・育児によって研究を中断した女性が現場に復帰するための制度)や、「女性研究者支援モデル育成事業」(女性研究者の育成・活動促進をモデル的に積極的におこなう研究機関に対する支援制度)などを設けている。しかし、「特別研究員制度」は、支援期間(2年)が短い、競争率が高い、などの問題点が指摘されている。「女性研究者支援モデル育成」事業は、2008年度までに公募により 33 研究機関(大学、研究所)が採択された。採択された機関では女性研究者の積極雇用推進や、周囲の意識変革などの取り組みが進んでいる。しかし、支援期間(原則 3 年)後は各機関で独自に予算措置が必要なため、体力のない研究機関で存続可能かどうか危ぶまれる。中小の私大などがこうした動きから取り残されているのも問題である。

保育所や学童保育などの整備も遅れている。

文部科学省科学技術政策研究所の調査によれば、40 歳以上のポストドクターの女性比率は、27%と、39 歳以下の場合と比べて高い。同研究所は、その理由として「研究をスタートさせる年齢は女性の方が高いため」と述べているが、この説明は正しいのだろうか。女性は、男性に比べて、40 歳をすぎてもパーマネントな職を得にくいと考えるほうが自然に思える。

JSA として、このような状況を把握・分析し、解決に向けて取り組みを強化する必要がある。女性研究者・技術者委員会の拡充が望まれる。

(日本科学者会議常任幹事、女性研究者技術者委員会 石渡真理子)

## コーディネーター総括 女性研究者の現状と展望

17 総合学術集会名古屋大会での女性分科会が成功しました。若手・中堅との団結も深まり、今後の希望が語られる元気のでる分科会でした。ご参加いただいた皆様、発表者の皆様に心よりお礼申し上げます。

女性分科会は「女性研究者・技術者の発展に向けて」と題し、現在、進行している学術

体制の改変が、女性研究者・技術者にどのような影響を与えているかを分析し、解決の方向を探るものでした。

そのため、まず石渡眞理子さん(東京支部 前女性研究者技術者委員会委員長)に、「女性研究者・技術者の現状と日本科学者会議(JSA)の取り組み」について第12回女性シンポ(07年6月)や学術体制部シンポジウム(08年1月)などこれまでの取り組みの経過報告を行っていただきました。

特に基調報告である坂東昌子さん(知的人材ネットワーク あいんしゅたいん、愛知大学名誉教授)の「未来を開く女性たちのネットワーク」と題するご講演では、坂東さんご自身の保育所作りの歴史を振り返りながら、女性研究者が自分たちの道をどう切り開いてきたか、その教訓について話され、大変勇気づけられる内容でした。

若手女性研究者の実際の研究や生活面や将来についての問題点については、長谷川千春さん(京都支部 同志社大学講師)が、「任期付講師というスタートアップとキャリア形成」について、伊藤恵理さん(富山支部)が「明治期女性雑誌『女子文壇』にみる女性の労働」について話されました。また、黒澤ひとみさん(愛知支部 名古屋大学教育発達科学研究科D3)が、「女性研究者の育児支援施策と大学関係保育所について 名古屋大学における保育所づくりを中心に」と題し、名古屋大学での保育の問題について実際の調査に基づく発表をなさいました。

さらに中堅以上の研究者との経験交流をおこなうためにということで、沢山美果子さん(岡山支部 岡山大学客員研究員・非常勤講師)が「私の「生きること」と女性研究者問題」と題し、ご自身の研究者としての歩みについて報告されました。子育て中の女性が前向きに研究生活を送っている様子や、大学や研究機関での女性支援の取組みの問題点が明らかになりました。

このほかにも権利問題委員会に岡山大学の笹倉さんにキャンパス・セクシュアルハラスメントの問題点について、白井さんに自衛隊でのセクシュアルハラスメント訴訟のご報告をお願いしました。分科会終了後には、若手院生と女性との合同交流会も企画されました。交流会には30名以上の方が参加され、大いに盛り上がりました。ネットワークにも新たに四名の方が入り、元気のでる集まりになりました。今後とも皆様のお力添えをいただき、女性研究者・技術者委員会をさらに発展させていきたいと考えています。JSA事務局にアイデアや困っている一言をどうぞお寄せください。

(女性研究者・技術者委員会委員長 金子幸代)

#### 討論の中で出た意見等

・男女共同参画学協会連絡会が実施したアンケート結果では、多様な生き方を肯定する女性研究者の意見が多かったが、現在の男性と同様の(長時間労働・創造性を発揮できない労働等)働き方でよいか、という疑問はあるし、収入が少なく、研究環境の格差が悪いことが問題。

・実際、多様な生き方は保障されていないこと、女性の研究者数を年齢別に表すとM字カ

ープになり、30~40代が少ない。子育ての期間はポストドクとしての研究継続もできなくなり、無職になってしまう。

・文部科学省の女性研究者支援制度については、少数の指導者を育てるためには役立つかもしれないが、視点や内容にずれがあり裾野を広げることには役立たない。企業が研究者を採用することも期待できない。

・ポストドクの生活安定は、学術会議も課題として認識している。政策に反映させる世論作りが必要。

#### 報告者・参加者感想

「ネットワーク」の力を知ることが出来ました。潜在力があることがわかりますが、国の財政政策により力が発揮されない状況ができています。その解決にも「ネットワーク」の意味が大きいと思いました。若い女性研究者の発表もすばらしいと思いました。(宮城 0)

大学内の保育所について、特にその初期の取り組みや現在の状況について、私は無知だったので大変勉強になりました。現在の名古屋大学の保育所の敷地拡大という朗報も、それが名古屋大学の地域貢献という名目のためという矛盾をはらんでおり、現在も本質的な理解がなされていないということが、大変残念に、また大きな問題であると感じました。

新しいことをするためには、相手を納得させる必要があり、その納得をさせるために坂東先生は、理論と確実なデータの提出に努力をなされたというお話がとても印象に残っています。それは、研究と同じ手法で面白く、大変勉強になりました。また、今後も引き続き今回沢山先生が発表なされた院生時代の活動など先輩方の若手時代取り組んだことのお話をいろいろ聞けたら嬉しいです。(富山 1)

今回初めて日本科学者会議に参加させていただきました。「女性科学者・技術者の発展に向けて」の分科会では、人的ネットワークの大切さをあらためて感じました。今も昔も、保育所問題、学童問題は根本的には変わらず存在していること、そして、その中で子供をもつ研究者はいろいろと苦労をしていること、先人のお知恵とパワーを少し分けていただいたような気がしました。懇親会も楽しく、また有意義でした。女性が楽しく働ける環境は男性にも働きやすいはず。これからも広い視野を忘れずこころがけていきたいと思えます。(岡山 S)

今回の分科会では、理系、文系両分野の方の報告があり、また、若手からベテランの方まで幅広く報告され、とても良かった。個人的には、沢山さんのお話にとっても励まされた。自分の周りには生き方モデルにできるような女性がおらず、志の大切さが大変心に染みてよかった。今後取り上げてほしいこととしては、格差の広がりと多様性が進むなかで、若手がどうネットワークを作り、運動を作っていくのかについて。(京都 H)

坂東さんのお話は大変よかったです。私も「大学に行ったら嫁の貰い手がないよ」と父に言われて薬学を選びました。自力で生きる道をと考えたからです。少数でもネットワークを作ると前進する可能性がある—勇気をいただきました。また、実態調査によるデータを使って行動することの大切さを学びました。(大阪 N)

## 2. 各地のたより

第6回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加して

科学者会議の全交流 ML からご案内頂いた、10月7日の京都での第6回男女共同参画学協会連絡会のシンポジウムに、前半だけ参加してきました。

午前中の分科会「生と性を考える」では、女性のライフサイクルの変化を科学技術の発達との関連で検証され、生涯に何人もの子どもを出産した過去の女性と比べて、先進国の現代女性は生理(月経)の期間が長く、そうした重荷を背負っているという視点もあるということに気づかされました。性の従来の意義は生殖と快樂だけであったが、今はコミュニケーションという役割も加えて、女性の地位向上に役立てようと提起されました。

午後の山中伸弥教授の講演は、話題の iPS 細胞の医学的内容より研究者生活のプロセスでの人間的悩みなどに重点を置いて話されたのが、今回のシンポジウムの趣旨に添っているように思いました。当初、臨床医としての挫折感を持たれたようで、栄光までの道筋は平坦ではなく、医学者としての方向性・生活上のこと・ご家族のことなど、普通の人と変わらない悩みも抱えながらの道程を率直に語られたことに親しみを覚えました。V&W (Vision & hard Work) の重要性、特に日本人は Vision に弱い傾向があることに警告をも発しておられました。ご夫人が氏の留学生活を支えながらも、ご自身の女医としてのキャリアを伸ばす努力をされていたことを、講演の最後で氏が紹介されたのが、ほほえましく印象的でした。

後半の全体会議: 調査報告は、本シンポジウムを主催した連絡会が2007年に行った科学者・技術者14000人に対するアンケート調査結果の報告と、それをふまえたパネル討論会でしたが、時間の都合で最初の一部しか聞けなかったのが残念です。いずれ報告集が出されることを期待しています。

別会場に各大学などの取り組み紹介ポスターや資料の展示も豊富にありました。男女共同参画事業として、保育施設の充実だけでなく、時間のない女性研究者を支援する研究補助員の配置、自宅研究を容易にする IT 技術の活用、ワークシェアの推進など、各大学で様々な方策がとられています。その活動拠点としての立派な建屋が創設された大学もあります。女性医学研究者支援を奨める女子医大も、各種の取り組みをしています。これらの事業が多くの方々に周知され、それを必要とする人達が誰でも利用でき、実効性のある支援活動が展開されることを期待しています。(大阪 寺岡敦子)

注) シンポジウム報告とアンケート報告は、それぞれ下記のサイトにあります。

[http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/doc\\_pdf/2008\\_sympo6th/6th\\_sympo\\_report.pdf](http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/doc_pdf/2008_sympo6th/6th_sympo_report.pdf)

[http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/2007enquete/h19enquete\\_report\\_v2.pdf](http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/2007enquete/h19enquete_report_v2.pdf)

### 3. 日本科学者会議 第41、42期 女性研究者技術者委員会活動記録

2007.6 第41・42期 委員・連絡員選出

2007.6.30 第12回女性研究者技術者全国シンポジウム開催 つくばアルスホール  
記念講演 「学術の世界における男女共同参画」(浅倉 むつ子さん)  
報告 「ポストク・任期付職研究者の出産・育児体験から学ぶ」(前田 佐和子さん)  
「日々是模索・女性植物研究者の育児と研究の両立生活」(今泉(安楽)温子さん)  
「理系研究所における男女共同参画の取り組み」(御手洗 容子さん)  
「大学・高専における男女共同参画、その取り組みと進展状況」  
全国大学高専教職員組合女性部 (寺田 珠実さん)  
「輝け、女性研究者！活かす・育てる・支えるプラン in 北大」  
が考えるポジティブアクション北大方式 (有賀 早苗さん)

2007.8 - 10 内閣府総合科学技術会議、内閣府男女共同参画局、文部科学省、国会各政党に女性研究者・技術者の環境改善推進に関する要望書提出

2007.8 男女共同参画学協会連絡会、第2回大規模アンケート調査協力

備考) 連絡会にはオブザーバー加盟 連絡担当 石渡

2007.10.5 第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム ポスター報告参加

「第12回女性研究者技術者全国シンポジウム」 石渡

2008.1.26 日本科学者会議学術体制部主催 シンポジウム報告

「女性研究者・技術者の現状と課題 - 「第12回女性研究者技術者全国シンポジウム」  
で学んだこと」(報告者 石渡真理子=全国シンポ実行委員長)

「OD問題・ポストク問題・・・女性研究者が15年先に学んだこと・・・」

(報告者 坂東昌子さん=日本物理学会キャリア支援センター長、愛知大学教授)

JSA学術体制部による政策づくりのための「作業部会」に参加、大学・研究所・個人などの情報をアンケート形式で収集(女性研究者・技術者部分)

2008.8 女性研究者技術者委員会のホームページ更新 担当 石渡

2008.11.23 第17回総合学術研究集会 分科会開催

#### 全交流 zenkoryu@freeml.com MLに参加しませんか？

発端は、06年日本科学者会議(JSA)第16回総合学術研究集会での分科会や懇親会などに参加した者が元気に会食した時、論議をもっと日常的に続けられたらね、という発案からスタートしました。女性も男性も、JSA会員に限らずいろいろな立場の人が参加しています。仕事や学びの相談ごと、意見、近況、会合に参加した感想、読書感想、ニュース、etc.なんでもありのMLです。入会希望者はHPへ、または会員へ入会希望を伝えてください。

(登録世話役 白井浩子 岡山大学・生物学)

今年もよろしく！  
(アフリカにて撮影 Tsuyoshi)

